

全国調査にみる多久市児童生徒の実態

教育委員会だより

論語カルタ大会は中止します

11月15日(日)に予定をしていた第16回論語カルタ大会は、新型コロナウイルス感染症拡大の予防のため、中止しますのでご了承ください。

平成21年4月21日に、小学校6年生と中学校3年生を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。内容は国語科と算数科・数学科の2教科、および児童生徒質問紙調査で、今年度が3年目となります。

この調査は、全国的な傾向に基づいて各学校で児童生徒の実態を分析し、良い点をさらに伸ばすとともに、問題点については改善策を協議・検討し、今後の教育活動に活かすことが目的です。多久市児童生徒の実態は、全国と比較すると、左記のような傾向があります。

多久市児童生徒の学力向上に向けて、多久市教育委員会では、9月15日の校長会で、実態分析と改善策について協議をし、生涯にわたって学び続けるための「学ぶ意味」を実感させる指導の大切さについて共通理解をしました。

各学校でも全職員で実態分析と改善策について協議を行い、お互いを高め合う集団づくりを基盤に、授業と実生活・将来を結び付けながら、学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習意欲）を高める取り組みを積極的に推進しています。

多久市教育委員会でも、これらの学校の取り組みを支援するとともに、地域・家庭と学校が一体となつて児童生徒をはぐくんでいくことができるように働きかけていきます。

▲多久市代表の意地を見せられた田代さん

□学力の3つの要素と全国調査との関連

- ①基礎的・基本的な知識・技能の習得が図られているか？
→主にA問題（国語科、算数科・数学科）
- ②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成が図られているか？
→主にB問題（国語科、算数科・数学科）
- ③学習意欲の向上が図られているか？
→主に児童生徒質問紙調査

□多久市児童生徒の実態

○国語科、算数科・数学科調査（A問題・B問題）

小学校

- 国語科よりも算数科が劣っている。良い順に国語科A問題、国語科B問題、算数科B問題、算数科A問題となっている。
- 国語科では「読む能力」、算数科では「数学的な考え方」を高める必要がある。

中学校

- 国語科よりも数学科が劣っている。良い順に、国語科A問題、国語科B問題、数学科B問題、数学科A問題となっている。（小学校と同様の傾向）
- 国語科では「書く能力」、数学科では「数学的な表現・処理」を高める必要がある。

○質問紙調査

- 将来の夢や目標をもっている児童生徒が多いとは言えない。
- 地域の歴史や自然に関心があり、地域の行事にも参加しており、多久市に愛着をもっている児童生徒が多い。
- テレビやビデオ・DVDを見る時間が長く、家庭での学習時間が少ない児童生徒が多い。

佐賀県民体育大会・陸上

田代亘さんが

100mで優勝

10月17・18日に武雄市周辺で開かれた第62回佐賀県民体育大会・陸上男子100m競走（30〜39歳の部）に出場の田代亘さん（北多久町砂原）が11秒7の記録で見事に優勝されました。



定例教育委員会のおしらせ

- 10月5日に臨時の教育委員会を開き、教育委員長に江口吉則氏、職務代理に江打正敏氏、教育長に中川正博氏を選出しました。
- 10月13日に定例の教育委員会を開き「教育委員会表彰」、「教育に関する事務の管理および執行の状況の点検及び評価」の件について協議し、承認しました。

次回の定例教育委員会は11月12日（休）の13時30分から第3委員会室（市役所2階）で開きます。傍聴は自由です。

■問い合わせ 教育委員会教育統括室
（市役所4階） ☎75-13450